

KYODO ENTERTAINMENT PRESS

KEP

別冊

KYODO ENTERTAINMENT PRESS

FM802 Magazine

OSAKA GIGANTIC ROCK FES 2019

produced by FM802

Special Issue

FM802DJが語る!

ジャイガ28組見所は?

Special Interview

KEYTALK

Live Report

BLUE ENCOUNTER

ウルフルズ

Gigantic News

UVERworld

sumika

ベリーグッドマン

マキシマム ザ ホルモン

大阪・舞洲に集結する2日間!
総勢28組のアーティストが

ACCESS

大阪市内から約30分!

簡単アクセスの舞洲に2日間ミュージックタウンが登場!

※時間はコスモスクエア駅利用の場合

コスモスクエアからシャトルバスでのアクセス

最寄り駅 地下鉄コスモスクエア駅(南港)周辺下車 ▶

ジャイガ 特設会場行き有料シャトルバス乗車

シャトルバス区間「コスモスクエア駅～ジャイガバスターミナル」

シャトルバス運行時間:8:00～22:00(予定)

前売りチケット¥1,000(往復) / 当日チケット¥1,200(往復)

往路「コスモスクエア駅～ジャイガ バスターミナル」は

速やかに乗車いただけるよう時間予約購入可能となります。詳細は下記よりご確認ください。



ご購入はローソン店頭Loppiのみでの販売になります

シャトルバスLコード:54805

※終演後も同じ場所からの発着になります。※前売シャトルバスチケットは数に限りがございます。

※予定枚数に達し次第販売を終了させていただきます。

※復路「ジャイガ バスターミナル～コスモスクエア駅」の時間予約購入はございません。

お車、二輪車でのアクセス

舞洲・風の広場にジャイガ特設駐車場、駐輪場を設置

開放時間:8:00～22:30(予定)

駐車券 前売¥3,500 当日¥4,000

駐輪場 当日/前売¥1,000

住所:大阪市此花区北港緑地2丁目

ご購入はローチケ/イープラスにて

直行バスでのアクセス

新大阪/梅田/天王寺/なんば/三宮/京都/

名古屋/岡山/徳島/高松/東京/横浜から

会場への直行バスツアーを運行しております。

ジャイガJTBオフィシャルツアーはこちら▶



DATE

8/3.sat11:00・4.sun11:00

舞洲スポーツアイランド 太陽の広場“ジャイガ”特設会場

[1DAY]大人 ¥7,900 小学生 ¥4,000

[2DAYS]大人 ¥15,000 小学生 ¥8,000

※小学生以上チケット必要。未就学児童入場無料。小学生以下は保護者の同伴のみ入場可能。

※出演者は都合によりキャンセル・変更となる場合がございます。その際チケットの払い戻しは行いません。

**チケット
現在発売中!**

ご購入はこちら▶

ローチケ/イープラス

他各プレイガイドにて



ローチケ



イープラス



今年、トリを務める2組のライブにFM802が潜入!

Live Report

Special Interview

緊急開催! ジャイガ対談!!

DJ・豊田穂乃花と『ジャイガ』座談会

KEYTALK



2019年、3回目の開催を迎える『ジャイガ』。その全てに出演を果たすバンドが何を隠そう、KEYTALKだ。FM802のDJ・豊田穂乃花と共に、これまでの『ジャイガ』の思い出や意気込みをメンバーの首藤義勝（vo.&b）と八木優樹（ds & ch）にたっぷり話してもらった。

豊田「KEYTALKは『ジャイガ』皆勤賞ですね」
首藤「お世話になってます。フェスと一緒に成長できている感じがして嬉しいです」
八木「大阪の夏といえば『ジャイガ』みたいな、そういう感覚がありますね」
豊田「今までに印象深かったことはありますか？」
首藤「これまでの2回とも17、18時ごろの出番だったので、黄昏シンフォニー」という夕方っぽい曲をやったんです。ちょうど夕焼けがきれいなタイミングと重なって、ロケーションと音楽が混ざり合うような、素敵な体験になりました」
豊田「今年は、初日のトップバッターでの出演となります」
首藤「はい、散らかして帰りたいと思います」
八木「一番得意なやつ」
豊田「オーティエンスとして観たいアーティストはいますか？」

首藤「そもそもすごいメンツですよ。僕はNothing's Carved in Stoneの生形真一さん（g）にプライベートでもお世話になっているので、観られるのが楽しみです」
八木「僕はそこですね。全部観たい」
豊田「間違いないですね」
首藤「UVERworldが終わるまではいたいよ」
八木「いたいよね」
豊田「いやいや、トリのBLUE ENCOUNTERまで見てあげてください!!」
首藤「八木（vo.&b）としくあ〜!!」
（同笑）

八木「なんて、仲良しなので許してください（笑）」
豊田「逆にイシられて喜んでくれるかも（笑）。プルエスは全フェスで初めてトリを担うそうです」
八木「意外!」
豊田「この間お話を聞いたら、UVERworldのあとはヤヘーっす! ってずっと言っておられました」
首藤「うーなんか気楽だよ、前に誰もいないんだもん」

みんなで作り上げる『素敵空間ジャイガ』

豊田「ご当地感ある『舞洲ハイパー』などフードも充実していて、他にジャイガヒョカミルクティーなんて今年らしいドリンクも出ます」
八木「タヒオカ、僕らも物販でやりたいです」
豊田「えー? グッズより売り上げよかったです」
首藤「ありえる。でも全然アリですね」
豊田「お客さんに向けて、提案したいフェスの楽しみ方なんてありますか？」
八木「みんな楽しんでみよすからな」
首藤「ステージから見てても本当に元気!」
八木「フェスで最前列にいたこともあってですけど、

正直ワンマンライブやるより疲れました（笑）。みんなすごい体力!」
首藤「もみくちゃにされて靴なくなったりね。でも後でちゃんとインフォメーションに届いてた」
八木「体力と優しさを持ったお客さんたちです」
豊田「フェスで助け合いの精神ですよ。あの空間、素敵だわって」
八木「キリッ」と、『素敵空間ジャイガ!」
豊田「キャッチコピーできました! 『ゴミの片付けなども協力し合いながら、綺麗なフェスの景色を大切にしてもらいたいですね。そしてKEYTALKは6月に新曲『ララ・ラブソディー』を発表。『ジャイガ』の披露もありそうですか?」
首藤「そうですよ。『恋やめ』って言えますか?」
（同笑）

豊田「ちなみにセットリストはどうやって決めてるんですか?」
首藤「その日に出るラインナップとかも意識しつつ決めますが、やっぱり出番の時間も大事ですね。今年はやり逃げセットリストです」
八木「それでいきましょー!」
首藤「早く帰るさ曲しかやらない（笑）。多分お客さんもイベントそのものを楽しみに、すごくウズウズして待っていてくれると思うので、ドカーン!と盛り上げていきたいなと思います」

KEYTALK 最新Info

新曲『ララ・ラブソディー』

自分らしく現代をサバイブする若者に贈るカゴメのプロジェクト『GO!ME.進め、いけ。』の書き下ろしテーマ曲。未来への期待を開放感たっぷりのポップネスな音世界で構築。MVではモデル・YouTuberのねおとコラボ。

好評配信中!

BLUE ENCOUNTER

FM802J 樋口大喜は見た!



舞洲に轟く! ジャイガティックシンガロンク!

BLUE ENCOUNTERをオリックス劇場で目撃してきた! これまでのライブハウスとは違って、照明の使い方やバックスクリーンに映像を出すなどホールならではの仕掛けを取り入れていた! けどやっぱり彼らは、ライブハウスを、目の前にいるひとりとりを、大切に想い歌うバンドだった! 演奏やパフォーマンスは飾らずにこれまで通りのフルエンを最大限に発揮! 会場のホールレーシムも上がり拍手やシンガロンクも大きくなる。決してホールだから起こったのではない。フルエンの音楽が、居場所をくれた、不安な夜も繰り返して、だじょうがと叫び続けてくれた。そんな思い出たちが突き動かしていたんだと思っ!



撮影:浜野カズシ

していた。あなたと対して向き合って理由を大切にしながらステージに立つ。気が付けばすすり泣く声も四方から聞こえてきた。後半は「ハウリングダイバー」、「ワンダーラスト」と最新アルバム「SICK(S)」から披露し涙を拭くように畳み掛ける。さらにライブ定番曲である「NEVER ENDING STORY」、「DAY X DAY」、「VS」で拳を突き上げ熱唱し、会場は最高沸点を優に超えた。「お前の歌だ!」そう言って放たれた「もっとなを」では、オリックス劇場を眩い光のシンガロンクで包み込んだ。本編最後に演奏したのが「それでも、君は走り続ける」。この曲は大阪マラソンに挑戦するヘースの辻村氏を想ってつくられた曲でもあり、FM802からも沢山届けてきた思い出深い一曲。日常に戻るみんながまた走り続けて、ここに、ライブハウスに戻って来られるように願いを込めて歌い上げていた。キャリア初のホールライブツアー、大阪過去最大キャパのオリックス劇場は熱気に包まれ素晴らしいライブとなった。

次は『ジャイガ』だ! フルエンはこのイベントが始まった2017年から出演し皆勤賞。去年出演時にはMCで、この一年で自分たちのことを知らない人も振り向かせる。そして来年も帰ってくると思っていた。約束は果たされた! 思えば2年前、『ジャイガ』終わりに田邊氏から電話があり一緒にご飯を食べた。とにかく嬉しそうで、やり切ったからお酒もいつも以上に進んでいたように思う。自身レギュラー番組を担当していたこともあって大阪はエネルギーをくれる場所と話してくれた。今年もバンド史上初となる夏フェス大トリに挑む! どんな時も決して挑戦することを諦めなかった彼らの新たな挑戦。見届けたいわけにはいかない!

ウルフルズ

FM802J 加藤真樹子は見た!



ロックンロールのリズムをとめるな! 2日間の最後にどでかい祭りが待っている!

関西人、みんな大好きウルフルズ。でもライブ見たことない方もそりやいますよ。『ジャイガ』で初めて観られる方もいますよ。そんなあなたに「...おめでとございませう!!」これからの最高のライブでソウルフルなロックンロールショーを初体験して、キャー! 楽しい! なるなる楽しんで参ります!

山あり谷ありなバンド人生をサヴァイブして、現在3人組のウルフルズはまるでパンクバンドみたいなスピリットと佇まいです。キャリア27年のバンドにこんなにシンプルに楽しそうに攻めの気持ちで音楽やられちゃったら、後輩バンド困りますよっていうくらいに。最新アルバム「ウ!!!」リリース時にはご本人たちも「めっちゃいい感じ!」と笑顔でおっしゃっていました。笑

実は、先日までのツアーがその「ウ!!!」のお披露目と共に、ものすごいお祭りセットリストが組まれておりまして。そりやもつ大興奮ですよ。「それが答えだ!」の後に「ええんんからの『笑えれば』とか、そんなに畳み掛けられるところの体力が! 感情が! ひー! でも楽しい! 楽しい! 全部歌える! 歓喜! みたいな! 『ジャイガ』ではきつと最新のウルフルズが分ると共に、私たちをまるでお祭りみたいな笑顔の大団円に連れて行ってくれるはず!!」

毎年夏のウルフルズの祭りという万博記念公園での恒例ライブ「ヤッサ」があります。今年は「ヤッサ」がないのです! (リニューアルして来年6月開催予定。詳細はウルフルズ公式HPへ) なのでメンバーの気持ちを勝手に想像すると、「大阪で野外でお祭りみたいなライブがないと夏じゃないみたい...」そんなフツツとしたエネルギーが炸裂するの、今年の『ジャイガ』なのです!

そんな状況である上に、野外のウルフルズは格



撮影:渡邊一生

別! タイトなのに熱い2人の演奏と、みんなの魂を揺さぶる男トータス松本さんの声。歌声が聴こえた時点でもう心掴まれますからね。なんなんだろうねあれ。別のフェスの話で恐縮ですが、毎年新潟県で行われている某ロックフェスにウルフルズは2014年の活動再開の年に初出演したのですが、そこにいる全員を熱くさせるめちゃくちゃにエモーションなステージを見せつけ、海外アーティスト中心のフェスにも関わらず、ベストアクトの声が多かったことがありました。個人的にですがわたしは、トータスさんは初めてウルフルズを観るお客さんが多かったり初めての場所だったりすると、より燃えるのかも... と思っます♡負けず嫌いが愛おしいです♡

笑顔で燃える3人に会いに行きましょー! 毎年ヤッサに行っているみなさまも、『ジャイガ』、2日間の最後に、どでかいお祭りが待っています!

UVERworld



撮影：田浦ボン

FM802 ROCK KIDS 802公開収録に密着!



撮影：田浦ボン

莫大な求心力と緻密なサウンドメイクで大観衆をもとにするロックバンド・UVERworldがアメリカ村BIGSTEPに降臨! 去る7月6日(何とテレビ日!)、FM802の「ROCK KIDS 802-OCHIKEN GOES ON!!」と「UVERworldのFC限定ネットラジオ「Neo Radio Wave」がコラボし、プレミアムな公開収録が行われた。その模様をレポートしよう。

DJ落合健太郎が呼び込むと、大歓声のなかメンバー全員が登場。デビュー前はドレッドヘアだったという克哉(◎)は、アメ村のドレッド専門店に通っていたなんてエピソードも飛び出しつつ、まずはリスナーからの質問コーナーに、「家探しのコツは?」との問いにバンド内で最多の6回の引越を経験している彰(◎)は、人を呼ぶことを考えない、携帯電話の電波がいいところとアドバイスするも、メンバー間の連絡に使っているFaceTimeでは彰だけが画面が固まったままほぼ電波が微妙だとか(笑)。そして今回で100回目となる「Neo Radio Wave」という「場所」について改めてTAKEYA(◎)が言及、「いい意味で緩いというか。ライブのMCでも話さないような、小さなことも含め自分たちの思いを話せるのはこたげかな。そんなメンバーの素顔が垣間見られる番組をさらに掘り下げるべく、ディレクターの李氏を招き番組中の思い出を発表。TAKEYA(◎)が遅刻常習犯であったことやCREW(◎)ファンとの生電話など。さらに誠果(sax)の初登場に盛り上がり最高潮へ! 台本にある、誠果初登場なんて説明箇所まで全て読み上げてしまうほど緊張の彼にほほの、生クリニック事件では、まれにあるレコーディングスタジオでの収録時、ドラムを叩きベースを弾きながら質問に答えるという試みも、「あんまり手応えなかったっけだな(笑)」(真太郎(d.s))、「ムチャぶりばっかりなんで!」(信人(b))と回想。今後はゲス

パー全員が登場。デビュー前はドレッドヘアだったという克哉(◎)は、アメ村のドレッド専門店に通っていたなんてエピソードも飛び出しつつ、まずはリスナーからの質問コーナーに、「家探しのコツは?」との問いにバンド内で最多の6回の引越を経験している彰(◎)は、人を呼ぶことを考えない、携帯電話の電波がいいところとアドバイスするも、メンバー間の連絡に使っているFaceTimeでは彰だけが画面が固まったままほぼ電波が微妙だとか(笑)。そして今回で100回目となる「Neo Radio Wave」という「場所」について改めてTAKEYA(◎)が言及、「いい意味で緩いというか。ライブのMCでも話さないような、小さなことも含め自分たちの思いを話せるのはこたげかな。そんなメンバーの素顔が垣間見られる番組をさらに掘り下げるべく、ディレクターの李氏を招き番組中の思い出を発表。TAKEYA(◎)が遅刻常習犯であったことやCREW(◎)ファンとの生電話など。さらに誠果(sax)の初登場に盛り上がり最高潮へ! 台本にある、誠果初登場なんて説明箇所まで全て読み上げてしまうほど緊張の彼にほほの、生クリニック事件では、まれにあるレコーディングスタジオでの収録時、ドラムを叩きベースを弾きながら質問に答えるという試みも、「あんまり手応えなかったっけだな(笑)」(真太郎(d.s))、「ムチャぶりばっかりなんで!」(信人(b))と回想。今後はゲス

トやCREWも呼びたいね」(以降全てTAKEYA(◎)と新たな展望を交えつつ話題は今年出演の「ジャイガ」へ。昨年、結構いいアクトができたと思っていて。今年はいよいよイメージのままいけるなと。これまで年間80本ほどのライブで10年間走ってきましたが制作に重きを置くべく、今年はライブを減らそうと。でもやっぱりラストレコーディング溜まって! だからライブハウスツアーも決まったんですよと、この日新たなツアーの発表も。ちゃんと関西の人たちも遊びに来られるようにと、未発表の関西公演に含みをもたせながら、貴重な公開収録の時間は幕を閉じた。



撮影：田浦ボン

マキシマム ザ ホルモン



完全復活を遂げた彼らは、その後行われた京都大作戦でも大暴れMCでは闇営業問題というタイムリーな時事ネタを取り入れ得意のブラックジョークで笑いを誘った。休止前と比べると、最近のライブは遠曲もけっこう様変わりしており、しばらく披露していなかった初期の人氣曲もいろいろセットリストに組み込んで、古くからのファンを喜ばせている。その一方で、定番の「恋のメガラバ」で始まり、「恋のヘルマ」で締めるという美しい起承転結が成立していた。

また、最新曲の「maximum the hormone II」(これからこの種カタコツテリの話しよう)では、曲中にナヲさんがドラムセットから離れてセンターのお立ち台に上がり、ダンスをするという斬新(?!なパフォーマンスがあるのも見逃せないポイントだ。

このバンドのライブが見られるのは、ライブハウスかフェスくらいしかない。ライブハウスの公演は当然ながら倍率が高すぎてそう簡単にチケットは手に入らない。しかも、ライブが始まると、若いエネルギーのぶつかり合いで中はさすがに戦場。不慣れな人が紛れ込むとあまりの激しさにライブに集中できないかも。

その点、ジャイガのような野外フェスならば、後ろの方には比較的ゆったりと楽しめるゾーンもあるはず。肌えた腹ペコ達の暴れっぷりを見物するのも興だ。

とにかく、今のマキシマムザホルモンを見られる貴重なチャンスを逃す手はない。

最後に、このバンドのライブでは、初心者でも必ず全員が「種カタコツテリ・ヤッター」という恒例行事「恋のおまじない」をやらされるので、そこはあらかじめ覚悟を。

ライブ再始動!

FM802J 浅井博章が語る!

マキシマムザホルモンのファンには「腹ペコ」という通称がある。おなじみの口上である「三度の飯より飯が好き!」に因んだ呼び名なのだろうが、今のキッズの中で一番お腹を空かせているのがホルモンのファンであることも確かだ。とにかくこのバンドのライブは貴重。ファンは常に飢餓状態で待たされている。

もともとリリースもライブも少なめのアーティストだが、ダイスケはんの頸椎椎間板ヘルニアが原因でマキシマムザホルモンは昨年の秋からライブ活動を休止していた。6月にZepp Osaka Bay sideで行われた久しぶりのライブでは、蓄積していたエネルギーが一気に爆発するかのようになり上がり。ダイスケはんも、見ているこっちが心配になるくらいに豪快なヘッドバンで復調をアピールした。



ライブ大成功!

FM802J 田中乃絵が語る!

6月末日sumikaはアルバム「Chime」のリリースツアーのファンル公演を大阪城ホールにて2日間行った。チケットは両日とも即完。sumikaのライブのチケットは毎回入手困難だ。「大阪のみならず、曲名を言わなくてもイントロで大きな歓声が上がれる。それはsumikaの音楽を好きでいてくれるからだと思う」とMCでV.O.の片岡健太は語る。

ステージの後ろにはsumikaにかけてか家風のセットが壁に所狭しと飾られた装飾をよく見ると、所狭しと大阪っぽい飾りが、今日のためにたくさん用意したのだと。言う。

「一番大切なのは、お金でも、時間でもなく、記憶だ。片岡がライブで度々口にする台詞である。

sumikaはこの夏再び「ジャイガ」で大阪へ帰ってくる。ジャイガと共にsumikaと私たちの時間は、その瞬間は、どんな物にも変えがたい特別な記憶になるに違いない。そう私は確信している。

sumika



撮影：後藤社太郎

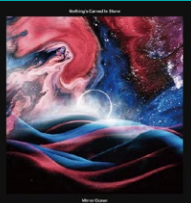
大阪城ホールでのライブ大成功!

今年1月には結成当時から掲げてきた夢の場所「大阪城ホール」公演を見事に成功させ、春からの史上最長ツアーも完走。今ノリにノっているベリーグッドマンがこの夏は「ジャイガ」に登場する!

先日、地元大阪で迎えたツアーファイナルでは、3人のハートニーを響かせながら、感謝と愛を届けた。今やファン層は若者だけに留まらず、小さなお子様連れのファミリー層まで幅広い。観客がタオルで涙をぬぐいながら、大声を張り上げて一緒に歌う姿が印象的。それは、「Hello」や「ライトスタンド」など彼らが送り出してきた数々のメッセージソングが聴く人自身の歌になっている証だ。

この日は、7/31リリースのニューアルバムから新曲も披露。「大丈夫」や「夢のまた夢」など新たなアンセムが誕生した。どれも夢を叶え続けてきた彼らだからこそ歌える歌だ。またMCでみせる軽妙な掛け合いは、さすがに聖地大阪仕込みといったところ。常に会場を笑いの渦で包む。3人の自然体でキョートなキャラクターも魅力の一つだ。

そんな超好感男たちだから、暑い夏の「ジャイガ」を一層熱くしてくれること間違いなし!



album「Mirror Ocean」 Nothing's Carved In Stone

バンド結成10周年にリリースされた同作は、メンバーの音楽的ルーツや信念さえも感じさせる充実した内容。歴戦のプレイヤー達による圧倒的な演奏力と洗練された表現力、壮大なスケール感は圧巻の一言だ。



album「space[s]」 Survive Said The Prophet

ジャンルレスな音楽性で枠に収まらない5ピース、通称「サブプロ」の個性と世界観が凝縮。聴き心地の良い英詞と、キャッチーな日本語詞のバランスが絶妙だ。演奏スキルも申し分なく、ジャイガの大きな会場で体感してほしいアーティストである。



EP「Odyssey」 Czecho No Republic

多彩なきらめきとゆらめきが詰まった全4曲のEP。しなやかな演奏と、のびやかな男女ツインボーカルが合わさることで、さらなる多幸感が溢れ出す。彼らの新たな可能性を感じとれる一枚。



album「FORCE」 FOMARE

全国47都道府県ツアー中のFOMARE。経験値を積み、日々進化を遂げている彼らの1stアルバム。疾走感溢れるロックナンバーと、切なさを感じる楽曲が盛り込まれた全10曲入り。中でもリード曲「Frozen」はライブで盛り上がること間違いなし。

ベリーグッドマン



撮影：Hoshina Ogawa

FM802J 深町絵里が語る!!
[SING SING SING 7]詳細発表!!